

# 合同ゼミの感想と反省

石崎 地引 中野 松村

## ○準備に関する感想と反省

感想は、とにかく時間が足りなかったということに尽きると思います。裏を返せば、自分達でうまく時間を作れなかったという反省点として挙げられます。言い訳になってしまいますが、就職活動と被ってしまったことで授業以外の時間にグループで集まる機会を設けることができず、効率よく作業を進められなかったのだと思います。しかし時間がないなりに、私たちのグループは役割分担がきちんとしてきていたので、直前になって焦るということはありませんでした。私個人としても、昨年に引き続きグループリーダーを務めたことで、昨年の反省点を改善できたので良かったと思います。

## ○当日の報告内容とそれに対する質疑の概要

私たちは「弱者救済のために消費税を引き上げるべきか」について、賛成の立場で調べてきました。報告内容について述べる前に調査の段階での率直な感想を述べたいと思います。それは消費税引き上げについて世論はもちろんのこと、専門家の意見も反対意見を示す文献や記事ばかりで、賛成の理由として有効な意見を導き出すことが非常に困難であったということです。私たちD班のメンバーの中でも、消費税引き上げに反対だった人が多いのも事実です。それに関連して言えることは、ある程度自分の中で物事の価値観が形成されているところに新たな価値観を持ってディベートに臨むとういうことがいかに困難であり、重要であるかということも感じました。

さて、報告内容についてですが私たちはまず救うべき『弱者』を『高齢者』と考えました。なぜなら日本は世界的に見て稀に見る急速なスピードで高齢化が進んでいるからです。日本の弱者救済制度とも言える社会保障制度の社会保障給付費では、その約50%が65歳以上の高齢者に支給される年金に給付されています。年金が今後ますます拡大する日本の高齢化に伴い、拡大することは明確です。つまり少子高齢化を大きな要因と考え、年金制度の確保を重要とし、勤労者世代の減少のためまんべんなく負担のできる消費税を引き上げるべきであるということです。なぜ消費税引き上げなのかの理由としては、他国との付加価値税の比較、国民負担率の比較、国民の負担が平等であるということを中心に挙げ報告しました。賛成の意見としてはやや物足りなさも否めませんが、大まかな理由は表現できたと思います。

質疑の概要についてですが、消費税を引き上げることで財源を確保することが本当にできるのか、消費税の引き上げによって低所得である高齢者にも重い負担になるのではないかと、生活必需品を低税率・非課税にして逆進性を緩和させることで内閣府の試算に見合った財源を確保できるのかといったものです。

幸いにもグループメンバーは、自分の意見をはっきりと発言することが得意な人が集まったので質疑応答で苦勞しませんでした。メンバーに非常に恵まれたと思います。

## ○合同ゼミに対する感想と反省

合同ゼミ本番では、お互いのチームがしっかりと準備をしてきたので、素晴らしい討論ができました。消費税引き上げの是非という、私達の生活に密着したものだだったので、有効的な意見を出し合い

活気に満ちたディベートになりました。先ほども述べましたが、多様な価値観を受け入れる能力というのは、これから社会に出ていく私たちにとってとても重要です。この合同ゼミではそういった力も養うことができるので有意義なものとなりました。

しかし、ひとつ反省点(というより改善してほしい点)を挙げるとするならば、私達のグループと相手のグループとで議題がやや食い違っていた点です。今回の議題は「弱者救済のために、消費税を引き上げるべきか」です。けれども、相手チームは消費税引き上げに反対する理由ばかりで、今回のディベートのメインテーマである「どのような政策が弱者救済に有効なのか」ということについては全く討論できなかったのです。そもそも論点が違うので、合同ゼミ終了後もやや不満の残る結果となってしまいました。そこで要望があります。それは議題をお互い明確にしてほしいということ、合同ゼミ当日までに先生・学生ともにある程度しっかりと打ち合わせをしてほしいということです。そうしないと今回のように論点のまったくずれた討論になってしまい、それまで一生懸命頑張ってきたものが不完全燃焼のまま終わってしまいます。それはとても悲しいことです。中には周囲に頼って本気で取り組まない人もいますが、本気でこの合同ゼミに取り組んでいる人がほとんどです。ですから、そういった人たちの努力や想いに報いるような結果を残すことのできる合同ゼミに、これから一步一步近付いていってほしいと願っています。

(文責 松村)